東北学院大学　数理・データサイエンス・AI教育プログラム
数理・DS・AI応用基礎プログラム
2024年度自己点検・評価結果報告

東北学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門委員会

自己点検・評価の視点			自己評価	取組と評価
学内からの視点				
	1	プログラムの履修・修得状況	A	本プログラムは、１年次配当科目１科目、２年次配当科目１科目及び３年次配当科目１科目によって構成されている。そのうち、１年次配当科目である「AI社会の基礎」の履修者数を今回は評価指標としている。2024年度に目標を設定したのは経済学部と工学部だが、履修目標はクリアした。 また、全体的な履修数も、2023年度と2024年度を比較するとほぼ倍増した。２年次配当の科目である「データ活用による探究（発展）」については、今回は評価の参考指標としたが全体で１％であり、各学年の継続性を含めたプログラムへの理解をさらに高める施策（情宣等）の工夫が必要である。なお、「（発展）」クラス以外を履修した学生を対象に、プログラム認定対象となる補習を実施した。 修得率（修得者数／履修者）については、参考とした科目を含めても、修得率は高い傾向にあるといえる。
	2	学修成果	A	「授業改善のための学生アンケート」における設問6-1（あなたは、この授業によって得られた成果がありましたか。）については、「大いにあった」「ある程度あった」の回答が「AI社会の基礎」では合わせて95.3%、「データ活用による探究（発展）」では合わせて100%を占め、アンケートに回答した学生のうち多くの学生が学修成果を実感している。 同様に、設問6-2（その成果は次のうちどれにあたりますか。）（複数回答）については、「知識の獲得・理解」「技術・技能の習得」の回答が「AI社会の基礎」ではそれぞれ90.1%、47.0%、「データ活用による探究（発展）」では95.7%、47.8%となり成果の内訳の多くを占めている。 これらのことから、履修学生がプログラム各要素の知識を身につけ、学修成果を得られていると実感しており、目標を達成できたと評価できる。
	3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	「授業改善のための学生アンケート」における設問5（あなたは、この授業の内容を理解できましたか。）について、「AI社会の基礎」では「よく理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた回答がで全体の95.3%を、「データ活用による探究（発展）」では全体の91.3%を占めており、理解できたと考えている学生が大半を占めるという結果だった。 このアンケート結果より、プログラム該当科目が学生が理解しやすい内容となっていると同時に、学生が十分に内容を理解していることが確認でき、目標を達成できたと評価できる。
	4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	「授業改善のための学生アンケート」における設問1（この授業を総合評価してください。）の結果のうち、「たいへん良い授業だった」「どちらかといえば良い授業だった」を合わせた回答が「AI社会の基礎」では91%、「データ活用による探究（発展）」では100%を占め、直接的な設問ではなかったものの概ね良い授業という評価であった。また、設問5（あなたは、この授業の内容を理解できましたか。）、設問6-1（あなたは、この授業によって得られた成果がありましたか。）についても高評価を得ており、直接的に他の学生への推奨度を問う設問は設けていないが、授業全体の評価が高い回答が多いことから、本プログラムが後輩等の他の学生へ推奨できるものと評価した。
	5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	本プログラムの詳細を掲載したwebサイトをリニューアルし、また、LMSを通じて学生への履修を促している。しかし、「データ活用による探究（発展）」の履修者数はまだ少ないことから、周知が徹底されているとは言い難く、履修率向上に向けた更なる取り組みが課題といえる。これらの取り組みは途上であるため、今後、学生に対してメリット等の周知などの検討を深めたい。 さらに、自己点検・評価の結果も活用しながら、授業配置の検討も含めて、専門委員会のみならず、上位委員会におけるさらなる議論・調整が望まれる。
学外からの視点				
	6	プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	E	プログラム修了者の進路、活躍状況については、まだ本プログラムが完成年度を迎えておらずプログラムを修了して卒業した学生がいないため、評価ができない。今後、卒業生アンケート（卒業後３年調査）に盛り込むための評価方法を検討する必要がある。
	7	産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見	E	プログラム修了者の進路、活躍状況については、まだ本プログラムが完成年度を迎えておらずプログラムを修了して卒業した学生がいないため、評価ができない。今後、卒業生アンケート（卒業後３年調査）に盛り込むための評価方法を検討する必要がある。 また、今後実施される外部評価の結果に基づいて、産業界からの視点を含めた改善を検討し、プログラムの達成水準を向上させる取組みを深めたい。

2024年度評価基準（S：とても良く達成できた、A：達成できた、B：ある程度達成できた、C：50%以下、D：達成できなかった、E：評価不能）